

臨床・薬理研究報告

写真三つ

九段クリニック理事長

阿部博幸医学博士

明海大学歯学部

高橋慶壮博士

とつかグリーン歯科医院院長

渡辺秀司歯科医師

マスティックの 2 大機能性、又歯科領域での応用について、九段クリニック理事長・阿部博幸医学博士、明海大学歯学部・高橋慶壮博士、とつか歯科医院院長・渡辺修司歯科医師に話を聞いた。

マスティックの抗ピロリ菌作用は、実験的な段階で明らかな抗菌性を示唆するデータが学会等で発表され明らかとなっている。阿部氏は先日行われた「第 3 回国際統合未来医学界」で、これまでの *in vitro* での抗ピロリ菌作用ではなく、*in vitro* での抗ピロリ菌効果があるかを検討する学会発表を行った。発表は胃内視鏡、呼気検出法ともにピロリ菌陽性の被験者にマスティック 6 カプセルを 3 ヶ月間投与したところ、除菌効果を示し、投与中止後も再増殖が認められなかったというもの。同氏はこの結果について、「抗生物質を使用しなくても除菌できるということは、臨床上大きな意味を持つ」と語る。一方、マスティックは十二指腸潰瘍や胃潰瘍に対しても治癒効果を示すデータが出るなど、機能範囲に広がりを見せているが、この点について阿部氏は「ピロリ菌が胃がんの発生に関与していることから、長期的に使用すれば胃がんの予防効果が期待できる」と語った。

広がりを見せるマスティックの機能性。もう一つの大きな機能「抗菌周病菌作用」について今後の研究動向を、マスティックガムの口腔内細菌の抑制について学会発表した明海大学歯学部の高橋氏に聞いた。高橋氏は「今後はもう少し基礎的な部分を研究したい。マスティックガムの直接の作用で殺菌力が発揮できるということと、ガムを噛むことで口内の好中球の機能に何らかの影響を与えるということの 2 つを考えている」と語る。この研究は、マスティックガムを噛む行為の、具体的にどこのどの成分に殺菌力があるのかを示すことに繋がる。高橋氏は「菌に対する直接の作用だけでなく、唾液中に含まれる好中球の出す活性酸素や酵素類の産生などに作用する、いわば細胞機能を高める効果があれば非常に面白い」と語った。

実際の歯科領域での応用も進んでいる。とつかグリーン歯科医院院長の渡辺氏は、マス

ティックの歯周病菌に対する抗菌力を評価し神奈川歯科大との経堂研究を行うなど、抗ピロリ菌作用と歯周病を結びつけた立役者。「当院では、噛み合せ、細菌のバランス、免疫、この3つからなる口腔内環境を整えることで歯周病治療の経過が良くなると考えてマスティックを使っている。以前から歯周病用に開発した4種の漢方生薬を使った洗口液で大きな成果をあげているが、マスティックガムとジェルはそれ以上に治療の経過が良くなる」という。また同氏は「市販の洗口剤は全ての菌に対して殺菌作用を起こすのに対し、マスティックは、基本的に悪玉菌のグラム陰性菌に選択的に作用する点がいい」と話す。